

神戸の須磨海岸を

団体名：すまうら水産有限責任事業組合、一般社団法人須磨里海の会、兵庫県、神戸市

里海に

スマ
Suma豊かな海プロジェクト

2023~



令和6(2024)年度Jブルークレジット認証後活動報告

現況調査



マルチビーム測量

保全創出活動



アマモ播種区のメンテナンス

教育・啓発活動



アマモ場で小形地曳網

海岸の順応的管理を継続し、長期的安定的な藻場の拡大創出と、その海岸を多くの市民が活用する里海をめざす

(1) 組織構成と役割

ブルーカーボンの増大のために2023年に組成

漁場整備（投石礁など）・増養殖技術の応用・ブルーカーボン量算出研究



浅場整備

兵庫県

神戸市

官民連携

漁業（ノリ・ワカメ養殖・刺網など）・海岸美化活動・海岸活性化策



自分で株付けしたワカメの収穫イベント

養殖・植栽

すまうら水産

須磨里海の会



海岸整備（遠浅化・海ごみ対策など）
・海岸の維持管理・ブルーフラッグ



環境保全・教育（アサリ増殖・藻場づくりなど）

(2) 令和6(2024)年度の活動内容と次期計画:藻場の種類ごとの状況

A) カジメ (褐藻類・多年生)

8月21日

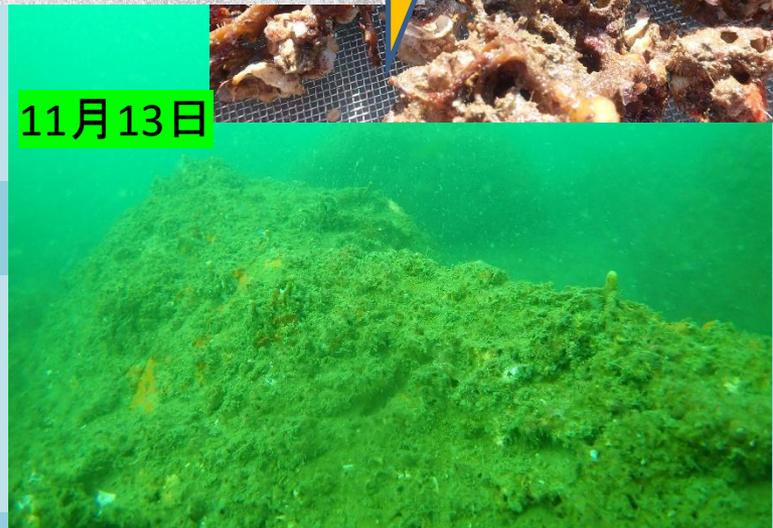


1.現状把握

- 1) JBCによるブルーカーボン認定量
0.593 t -CO₂と前年から微増
- 2) 藻場の範囲は1.33haと微減
- 3) 方法は潜水目視観察と定量採集による現存量調査の結果 (8月と11月)
- 4) 人工基質上に1~3年級群落が形成
・繁殖未確認・甚大な食害 (おそらく魚類)



11月13日



2.課題

- 1) 生活史が不明
- 2) 大形に成長できず、強い食害を受ける
- 3) 成熟個体の所在が不明
⇒将来的には磯焼けになる可能性がある

3.令和7年度活動計画

- 1) 広範囲に分布調査の実施
- 2) 秋に成熟期調査を実施 (子囊班の確認と採集)
- 3) 最新の増殖技術の試験的導入

(2) 令和6(2024)年度の活動内容と次期計画:藻場の種類ごとの状況

B) ワカメ (褐藻類・1年生)



2月15日

1.現状把握

- 1) JBCによるブルーカーボン認定量
0.155 t -CO₂と前年から増加
- 2) 藻場の範囲は0.31haと前年から減少
- 3) 方法は潜水目視観察と定量採集による現存量調査の結果 (2月と5月)
- 4) 人工基質上に優占群落を形成
・繁殖確認・食害は少ない (アメフラシ)

5月15日

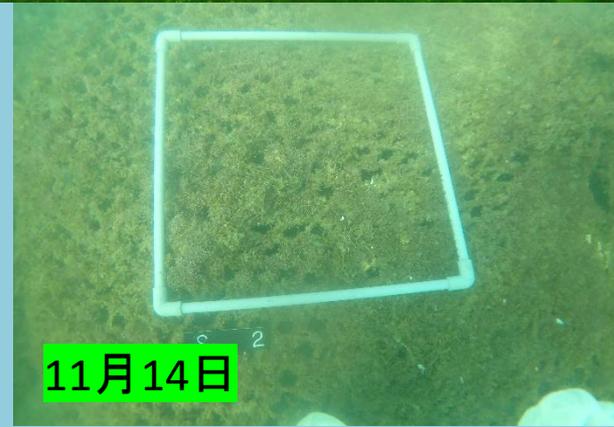


2.課題

- 1) 砂地と深場以外の多くの人工基質で濃生し、
基底を暗くすることで、海藻と葉上等
の動物群集の多様性を低下させている
- 2) 初夏に一斉に枯れ、その後、秋の海中景観を
低下させている

3.令和7年度活動計画

- 1) より広範囲に分布調査を実施し、海岸全体の
ワカメのブルーカーボン量を算定



11月14日

(2) 令和6(2024)年度の活動内容と次期計画:藻場の種類ごとの状況

C) アカモク (褐藻類・1年生)

1.現状把握

- 1) JBCによるブルーカーボン認定量
0.005 t -CO₂と前年から大幅に減少
- 2) 藻場の範囲は0.40haと前年と同じ
- 3) 方法は潜水目視観察と平均株重量の測定による現存量調査の結果 (5月)
- 4) 人工基質上にワカメに次ぐ被度の群落形成
・繁殖未確認・甚大な食害



5月21日

海面にアカモクの
たなびくようす

2.課題

- 1) 生育量に年変動が大きい
- 2) 密生地と疎性(点生)地が明瞭で、調査に
多くの労力を要する
- 3) ワカメと競合している
⇒現時点では、将来的に磯焼けに向かっている
とは考えられない

5月21日

令和6年のアカモク
の藻体は細く、例年
に比べて枝ぶりが
貧弱



3.令和7年度活動計画

- 1) より広範囲に分布調査を実施
- 2) スポアバッグ法を用いて、生育量を増やす試験
を実施
- 3) 最新の増殖技術の試験的導入



(2) 令和6(2024)年度の活動内容と次期計画:藻場の種類ごとの状況

D) アマモ (種子植物・多年生)

1.現状把握

- 1) JBCによるブルーカーボン認定量 0.007 t -CO₂と前年から微増
- 2) 藻場の範囲は0.03haと前年から微減
- 3) 方法は潜水目視観察による総株数の測定の結果 (7月)
- 4) 砂泥底に播種と栄養繁殖による群落形成・種子と地下茎による繁殖を確認・甚大な食害

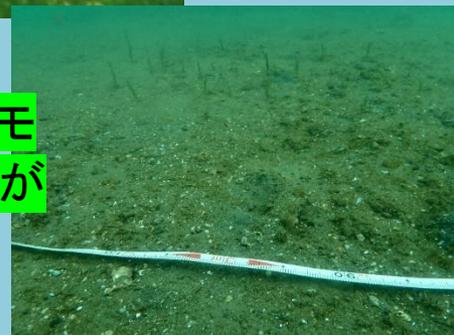


7月4日
自生地は疎性で、
群落はパッチ状に
分散する

2.課題

- 1) 移植用栄養株の調達先がない点、種子の調達も難しくなりつつある
- 2) 生育基盤の砂地が不安定
- 3) 生育状況に年変動が大きい。その原因はホトトギスガイやアオサ類との生息場の競合
- 4) アイゴ等による食害により、草体が秋にほぼ消失

11月5日
自生地のアマモ
は食害で草丈が
10cm程度

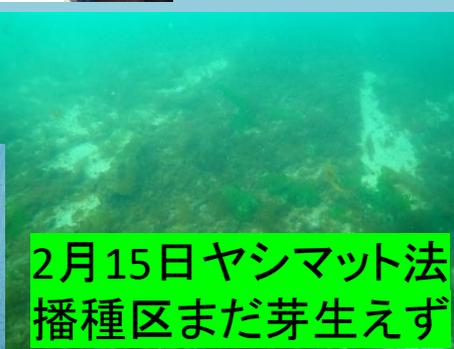


秋アマモ播
種イベント
を実施



3.令和7年度活動計画

- 1) マルチビーム測量を用い、詳細な分布調査と生育条件の分析により、効果的な播種計画を作成
- 2) 持続的な播種
- 3) ホトトギスガイのマット除去等生育場の管理



2月15日ヤシマット法
播種区まだ芽生えず

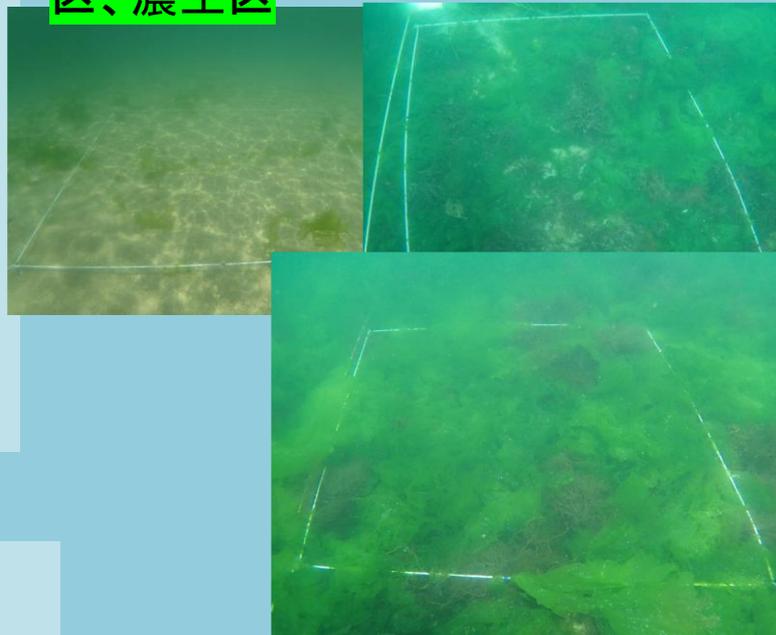
(2) 令和6(2024)年度の活動内容と次期計画:藻場の種類ごとの状況

E) アオサ類 (緑藻類・他季節海藻)

1.現状把握

- 1) JBCによるブルーカーボン認定量
0.283 t -CO₂. 今年度から新たに調査を始めた
- 2) 藻場の範囲は5.8haと各藻場の中で最も広い
- 3) 方法は潜水目視観察と定量採集による現存量調査の結果 (6月と10月)
- 4) 砂礫底およびホトトギスガイのマット上に、冬から夏の季節的にみられる群落を形成
・食害は受けている (軟体動物、魚類等)

2024年6月12日遠浅海岸に生育するアオサ類(上から点生区、疎性区、濃生区)



2.課題

- 1) 生活史が不明
- 2) 砂浜で繁茂し海岸に大量に漂着し、砂浜海岸管理上の迷惑生物になっている。

2023年4月8日
漂着アオサ類と
波打ち際に寄
せるアオサ類



3.令和7年度活動計画

- 1) 広範囲に分布調査を実施
- 2) アオサ類の大量発生と大量漂着のプロセスを明らかにし、その抑制対策を検討